

# OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱ ゾンタクラブ第30号(2010年9月)



## 巻頭言

### Z・フローラ・プロジェクト

会長 西村 博子



Z・フローラ・プロジェクトの全国展開が始りました。世界の女性の地位向上を願って活動する中、国際社会のみならず、日本の地域の中でも出来ることをと、札幌の3つのゾンタクラブが提唱されました。これは直ちに地区大会で決議されて、26地区全体のプロジェクトとして進められることになりました。

国際ゾンタを通して世界の女性のための奉仕活動が続けられる中、国内で一丸となってすすめるプロジェクトは、まさに勇気ある身近な活動です。

朝日新聞に、「子宮がん」の総称やめてという記事が掲載されていました。「子宮頸がん」と「子宮体がん」は、学会は1978年から別々の病気として治療が進められているそうです。子宮頸がんは子宮の入口に生じ、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染から引き起こされます。若い女性の命を守るために、予防には健診とワクチン接種が必要不可欠であり、すでに世界107ヶ国で予防接種が実施されています。そのワクチンは日本でも昨年に発売されましたが、接種費用は全額自己負担です。一部の市で公的に補助がされての接種が実施されましたが、氷山の一角です。大阪府では、池田市が、来年度から接種費用の一部助成をされます。池田市の11～14歳の女子1,800人が対象です。

私は11年前、自ら乳がん向き合い根治することが出来ました。早期発見、早期治療の大切さと同時に、その予防のために出来る事は、女性の命を守るため絶対に必要なことだと確信しています。

私たちは、未来の子どもたちの命を守っていくために、この予防接種の公費負担の実施に向けて、行政に働きかけをしていきます。

署名活動は、ゾンシャンお一人お一人の力の結集が必要です。すべての女性がフローラ(女神)のように輝く存在であることを願っての運動、この活動でゾンタの存在も広まっていくことを実感しています。

初めての署名活動ですが、まわりの人たちお一人お一人に声をかけながら進めていきましょう！皆さま方の願いが結集していきますように。



「いのちの電話」へ当クラブから10万円の寄付

## 報告

徳光 正子



エリア3の第2回エリアミーティングが2010年4月17日に金沢で開催され久しぶりに、母(大阪I所属)と参加した。国際ゾンタ指名委員長真鍋洋子様、ガバナー山本蒔子様他遠方からもご来賓の方々のご出席くださり、また石川県知事谷本正憲様、金沢市長山出保様も熱いエールを送ってくださった。若くてさわやかにプログラムを進行し、澁刺と行動的な金沢のゾンシャン達の姿に、過ぎし時をふりかえり、大阪IIゾンタ誕生のころをなつかしく思い出した。県をあげての暖かいおもてなしにここから感謝いたします。

ビジネスセッションはスムーズに経過し、今年のアワードは、各クラブの協力あってこそということで全クラブに行岡ADより黄色いバラが贈呈された。ワークショップでは、ゾンタにおける奉仕「LLA活動のあり方について」のテーマでグループディスカッションがあり、私自身は、今まで当たり前のように企画してきた奉仕や活動の意義目的を改めて再認識するきっかけとなった。ゾンタストアでは、ベトナムの刺繍画や小袋を販売。大阪IIからは西村会長、宮本さん、久岡さんと私の4人参加だったが、仲良く協力し合って楽しい一時を過ごした。コーヒブレイクの後は「人と組織を輝かせるリーダーシップとはーあなたの周りには、ダイヤの原石がいっぱい!ー」と題して今話題の「ほめ達」西村貴好氏の講演があり、暗い時代に明るく元気に仕事に向かう勇気を頂戴した。

懇親会のオープニングは、古都ならではの藤舎真衣さんの笛の音、アトラクションは永村幸治さんの津軽三味線の演奏を楽しんだ。いつの間にか古都の夜は更けて…、一日の熱い興奮と心地よい疲れを覚えて、母とホテルでゆっくりと休んだ。久々の親子旅、これもなかなか良いものだなあと感謝しながら。

## エクスカーション

西村 博子



エリアミーティング終了後は、エクスカーションです。

当日夜の移動先は、金沢の奥座敷として有名な湯湧温泉です。明治末期に創業された純和風の宿で、のんびりお湯につきながらの交流、そしてお国自慢の歌が次々と飛び出すカラオケでの熱唱は、ホストクラブの若さ溢れるゾンシャンのリードで、大いに楽しみました。翌日は、能登半島西岸の森の中にたたずむ大津峰山・大光寺の「薔薇観音」での記念植樹。お姿が瀬戸内寂聴さんにそっくりな宮本光順庵主様のユーモアたっぷりの法話に耳を傾け、お抹茶に心のこもった精進料理をいただきました。エリアミーティングを記念しての薔薇の植樹は、ゾンタローズガーデンとして作庭された地に、50本の黄色の薔薇の苗木が植え込まれました。翌日には、その記事が北陸新聞に掲載されました。ゾンタのシンボルマークの黄色い薔薇の記念植樹は、金沢の地でも、ゾンタの奉仕活動をさらに広める役割を果たしたようです。

大阪IIクラブの名前も銘版に記されます。クラブの奉仕寄付に感謝して、薔薇の咲き乱れる季節に移動例会で訪れたいものです。

記念植樹の後は、海辺の花のミュージアム、志賀原子力発電所を訪れ、日本海の砂浜のなぎさドライブウエーを疾走し、ボランティアガイドさんによる金沢東の茶屋街を散策後、散会となりました。このように大いに楽しい有意義な企画をしてくださった金沢ゾンタクラブの美しく、ぴかぴか輝き、若さ溢れるゾンシャンの皆さまに、紙面を借りてお礼申し上げます。

♪ありがとうございました♪



## 帝人グローバル人事室チームに勤務して (カロラ・ヤプケさん)

坂本 千代



2010年3月11日の例会卓話では我がクラブのメンバーであるカロラ・ヤプケさんがスピーカーとなってくださいました。ドイツから来日してまもなく1年になる彼女に日本でのお仕事についてお話していただきました。ヤプケさんが前の週に準備されたという18ページの資料(日本語)を使いながら英語で話され、坂本が時々日本語に訳すという形での45分の講演でした。最後には質問もいくつか出て、リラックスした雰囲気なかでとても有意義な時間を過ごすことができました。

以下は、後からヤプケさんに送っていただいた卓話の要約です。

### 1. 世界が「小さく」

イタリア、アメリカ、そして日本と3回の海外勤務の経験を経て、世界は小さくなってきたように感じています。どの国にも独特の文化と風習がありますが、海外での経験を重ねるほどに似ているところを発見することが増え、新しい環境に入っていくことに不便さを感じないようになってきたのです。

### 2. 新しい環境に「なじむ」努力

海外で生活をするということは、当然の権利が与えられず、母国語以外で相手を理解、自分を理解してもらう努力をし、職場ではもう一度新人からスタートする、そうした不慣れな環境に「なじむ」努力をすることを意味します。私が入り組んだ努力は、主に「事前準備」と「心構え」の2つです。

#### 「事前準備」

アメリカに赴任したとき、「ヨーロッパと大きな違いはないだろう」と考えほとんど準備をしないまま出発しましたが、実際には何もかもが驚くほど異なり、カルチャーショックでとても苦しい時期を過ごしたことがあります。反対に日本への赴任が決まったときには、日本語の先生から言葉と習慣について学んだり、日本での人脈作りを開始したりと約半年かけて準備を行いました。事前準備は功を奏し、毎日とても快適に過ごしています。

#### 「心構え」

これまでの常識が通用しない環境で快適に過ごすには、出来るだけ心を開き、理解しようと自分から輪の中に入って行くことも大切です。すぐに判断を下さず、相手や状況があるがまま受け入れることも。そうして「外国人」としてではなく社会の一員として生活することで、ようやくその国の本当の姿を見ることができると思うのです。実際「日本は『理解しづらい』単一民族の国だと思いますか」などと質問を受けることが多いのですが、欧米人が持つ固定概念とは対照的に、社会の中に入ってみると日本もほかの国と同様、一つの枠には収まりきれない多様性を持った社会だと感じています。

### 3. 社風は、国ではなく組織の性質を反映

一般に国によって異なると思われがちですが、社風は組織の性質によって決まると考えています。例えば、ドイツのHoechst AGと帝人グループは、どちらも官僚的な大企業体質を反映しており、意思決定に時間を要する点が同じです。また、働く女性として直面する「男性中心社会の勤務形態」や「仕事と子育ての両立」といった課題は、どの国にも共通していました。

### 4. 今後の目標について

帝人グループには、現在11の国籍を持つ従業員が働いています。その中で業務を円滑に進めていくためには、お互いの文化に対する理解が不可欠です。私は全世界の人財を管理するグローバル人事室に勤務し、世界の連絡網をより強固なものにしようと日々業務に取り組みんでいます。海外勤務の経験を積んだ一人として、文化の違いを乗り越える秘訣や大きな視野で世界を見つめる重要性を訴えながら、帝人グローバル人事の更なる成長を推進していきたいと思っています。



同僚に囲まれたヤプケさん

## 天満天神繁昌亭で落語を楽しむ

牛田 三千子



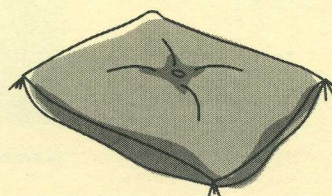
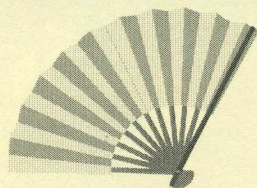
梅田を中心とする大阪キタの繁華街を東に少し外れると、学問の神様、菅原道真を祀る天満宮がある。その門前に4年前にオープンした上方落語の殿堂「天満天神繁昌亭」があり、その名のとおり連日大繁盛の賑わいをみせている。

恒例の春の移動例会(2010年4月10日)は、この繁昌亭を訪れ、落語という古典芸能に触れ、かつ、久しぶりに大笑いしようという趣向で企画された。5月のチャリティーイベントに、この繁昌亭の支配人の恩田雅和さんをお招きし、ご講演いただくことになっているので、その下準備の体験も兼ねてのことである。私は、落語をナマで聴くのははじめてのことで、かつ、その知識も、NHKの朝の連ドラ「ちりとてちん」を時々見たという程度の超初心者。しかし繁昌亭は、天満宮鳥居のすぐ前という立地に加え、その建物も昔の芝居小屋といった風情で、入り口に立っただけですぐ寄席見物の気分になる。

午後1時から始まり、中入りをはさみ約3時間、10人の噺家さんが、次々に古典落語や踊りや漫才やらで楽しませてくれる。若手から順に登場するらしく、初々しくちょっと緊張気味の落語家さんあり、年季のはいったベテランの落語家さんありで、どの噺も面白く大笑い。客席との掛け合いも楽しく、あっという間に時間が過ぎた。

初心者の私が感動したのは、噺だけでなく、食べる動作、飲むしぐさ、扇子を何通りにも使う所作…と、座りながら一人何役もこなし、聞き手に何人もの登場人物と情景を想像させる技術である。短気とのんびり屋の登場人物が出る噺では、一人の噺家さんと思えないほど顔つきまで全く違って見える。これはまさに芸の力である。オチはわかっているのに、同じはなしで何度も笑えるという芸は、そんなにあるものではない。

大いに堪能して、帰りは、日本一長いといわれる天神橋商店街にあるコーヒーショップで一休み。春の暖かさとともに、心も暖かく帰路についた。





2010年5月15日大阪IIゾンタクラブ第16回チャリティーイベントが花外楼(大阪市中央区)で開催されました。天満天神繁昌亭支配人恩田雅和氏を講師にお迎えし「漱石と大阪」と題して、漱石のしるした足跡を詳しくお伺いしました。以下講演の内容を簡単にまとめてみました。

漱石は1867年から1916年の49年の生涯で4回大阪に来ています。

- 1、明治25年 無二の親友の正岡子規(2人とも25歳、東大予備の学生、漱石は同時に早稲田の英語教師)と共に堺の妙国寺を訪ねる。
- 2、明治40年 第一高等学校の教師を辞め朝日新聞社に入社。村山社主に挨拶に来る。高麗橋ほしのや旅館に宿泊。
- 3、明治42年 満州、朝鮮半島に行ったあと馬関から東京新橋に行く途中、大阪朝日新聞社を訪問。浜寺公園の新一力で食事をする。この時の様子は『行人』に詳しく書かれている。
- 4、明治44年 関西巡回公演で来阪。

漱石4回目の来阪の折には明石公会堂(現中崎公会堂)、和歌山県会議事堂、堺高等女学校(現泉陽高校)、大阪市公会堂で計4回の講演をしていますが、何れの講演も超満員。「道楽と職業」「現代日本の開化」「中味と形式」「文芸と道徳」などその土地にあう講演をしましたが、中でも和歌山での「現代日本の開化」が一番いい話とされ漱石研究者に重要視されています。明治政府を痛烈に批判したのだそうです。

その内容は、西洋の文化は自然ににじみ出る内発的文化であるのに対し、日本の文化は外発的文化であるということ。明治43年幸徳秋水、菅野スガラによる大逆事件後、菊池大麓、鎌田栄吉ら文部大臣歴任者によって「教育勅語」「国民の教育性」など日本が一等国であるという講演が和歌浦でされました。大逆事件で死刑になった12人の内2人、検挙された26人の内6人が和歌山新宮の人であったからだそうです。その講演に対し漱石は「日露戦争以後一等国になったという高慢な声が聞かれる」と両者を批判しています。当時京都帝大の総長をしていた菊池大麓を漱石は毛嫌いしていました。漱石晩年の小説『彼岸過迄』『行人』『心』『道草』『明暗』は以上の流れを理解していなければ読み解けません。

恩田雅和先生の実に詳しいお話をお聞きして、大阪や堺、和歌山など身近なところに漱石が来ていたのだと知り、急に漱石に親近感をおぼえ、昨年末NHKで放送された司馬遼太郎の『坂の上の雲』が頭に浮かんできました。テレビドラマの中の漱石はまだ学生の若さいっぱいの頃でしたが、あれからこんな人生を歩むことになるのかと手にとるようによくわかったような気がしました。今日伺った流れを理解していないと読み解けないといわれる晩年の5つの小説をあらためて読んでみたいと思いました。



# 年間活動報告

## 大阪Ⅱゾンタクラブ 年間活動報告(2009.6.1 ~ 2010.5.31)

月	主 な 行 事
2009年 6月	例会 ・2008年度 年間活動報告・決算 承認 ・2009年度 年間計画 協議 新旧役員引継ぎのため役員会
7月	例会 ・新入会員 入会式 ・大阪Ⅱクラブの規約改正 承認 ・2009年度 年間計画・予算 審議・承認 奉仕活動 「希望の家」へ銭太鼓による奉仕訪問
8月	例会 休会 納涼会 有馬温泉でのひととき
9月	例会 ・新入会員 入会式 ・地区大会・審議事項 協議 ・卓話「不幸な境遇の魚たち、その不幸への対処方」 和歌山大学名誉教授 岩田勝哉 氏 ・ADの行岡陽子さんを迎えて 会報誌第28号発行
10月	地区大会 於：仙台 (10.1～3) 移動例会 奈良 東大寺を訪れ、茶粥懐石を楽しむ チャリティイベント 準備
11月	大阪Ⅰ・Ⅱ合同例会 ・卓話「世界の長寿食文化とは？－女性の美と健康に鍵－」 武庫川女子大学 国際健康開発研究所所長 家森幸男 氏 秋の親睦旅行 (11.22～23 熱海)
12月	例会 忘年会 (於：エプバンタイユ 心斎橋) 地区大会の報告 奉仕寄付・・関西いのちの電話
2010年 1月	例会 新年会 (於：花外楼 大淀別邸) ・卓話「宇宙飛行士 山崎直子さん」 大阪Ⅱゾンタクラブ 女性の地位国際委員会委員長 福本敏子さん ・チャリティイベント 協議
2月	例会 ・2009年度 国内・国際の奉仕活動・寄付先の報告と承認 ・2010年度 奉仕活動・寄付先の検討 ・YWPA 奨学金応募者のクラブ推薦 承認 ・チャリティイベント 協議
3月	例会 ・卓話「帝人グローバル人事室チームに勤務して」 大阪Ⅱゾンタクラブ カローラ・ヤブケさん ・チャリティイベント 準備 奉仕寄付・・大阪府女性基金、大阪市ゆとりとみどり振興、FUJI 基金 国際ゾンタ財団 会報誌第29号発行
4月	移動例会 天満天神繁昌亭で落語を楽しむ 大阪府女医会市民講座 後援 エリアミーティング 於：金沢 (4.17)
5月	総会 ・次年度に向けて ・国際大会審議事項の審議 ・次年度例会日検討 ・チャリティイベント 準備 15日 チャリティイベント Vol.16 講演とお食事のひと時 講演「漱石と大阪」 天満天神繁昌亭支配人 恩田雅和氏 (和歌山大学講師) 会場：料亭 花外楼

## 淀川の花火

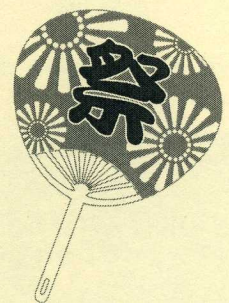
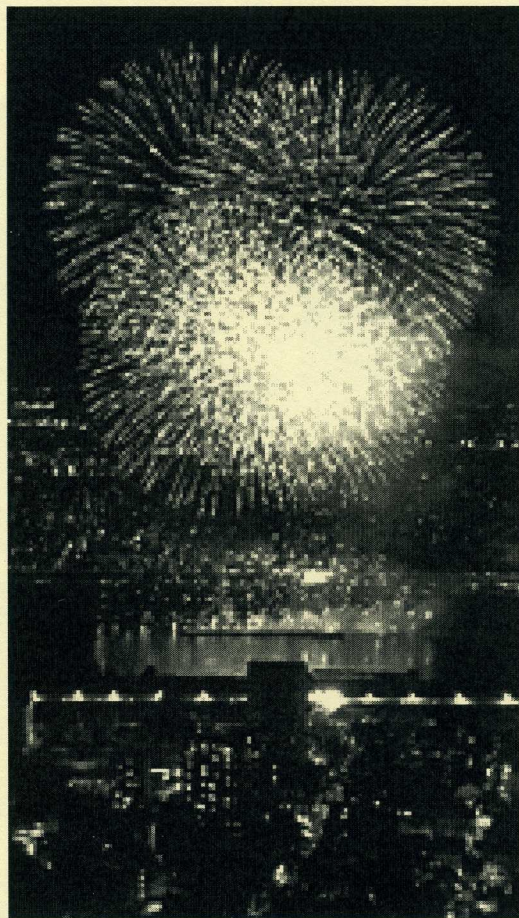
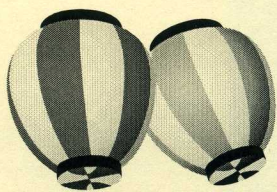
堀 知子



大阪の夏の夜を彩る「なにわ淀川花火大会」が8月7日夜、開かれました。私たちゾンター行を含め50名ほどの観客はユニバーサルシティポートよりエアコンの効いた遊覧船に乗り込み、淀川の会場に向かいました。淀川河口付近では、何匹ものボラがまるで飛魚のように勢いよく水面を飛んでいるのに遭遇しました。そのうちの1匹はなんと我々の船を飛び越していったのです。思わぬ光景に案内役の落語家さんの話もそっちのけで見入ってしまいました。花外楼さんのおいしいお弁当を頂き会場に到着、花火が始まるまでの間は落語の小話などの余興を楽しませていただきました。

いよいよ花火大会の始まりです。船のガラス張りの天井と窓が開けられ目の前にいきなり大きなスターマインと地響きのするような音が飛び込んできました。思わず歓声を上げ子供のころ映画館でしたように拍手をしてしまいました。次々と繰り広げられる花火、にこちゃんマーク、キティちゃんの顔などもあり、花火師の高い技術に感心したり、子供心に返って1時間ほどの時間を堪能させてもらいました。

前日の8月6日は広島原爆記念日で被爆者の話が放映されていました。ぴかっと光ってドンと大きな爆発音がしたのでピカドンというそうですが、その結果はご存知のとおり悲惨な状態になりました。今日本にいる私たちは火薬を使った光の芸術を見て楽しんでます。なんと幸せなことでしょうか。



還暦を迎える前に

笠置 伸子



「あ〜、もう少しで還暦だぁ〜」と思った時に、残りの人生は自分の思うがままに、自由自在に生きて行こうと思いました。(そうは言っても、私の自由自在度なんて大変小さな事なのですが…)

まずは、好きな事をして、楽しく毎日を送ると言う事をモットーに！

そんな時にゴルフとの出会いがありました。まさか、ゴルフを始めるなんて考えてもいませんでした。必然的な出会いと健康の為。そして運動不足解消の為に…！

さて、練習に通う事になりましたが、運動は若い時からした事がなく、また凄い運動音痴の私が、一週間に1〜2時間の練習をしてもどうにもなりませんでした。

どんなに近くても車で移動をする事しか考えていない私は、筋力も体力もなく、足の内側に力を入れて立つ事も出来ず、腰を動かさないと肩を廻す等、基本的なゴルフの動きが全く出来ていない状態でした。私にとって、ゴルフは何一つ楽しい事はありませんでした。

そんな折に、何人かの方がコースへ連れて行って下さいました。

そのお陰で、“土の上を歩く気持ちの良さ”“鳥の鳴声の心地良さ”をあげ、水の音を感じ、花の匂いを嗅ぎ、そして色を見て…と何もかもが驚きの連続です。

同じ所なのに同じ風景は二度となく、当たり前な事がこんなに手近にあったのに、今までは何ひとつとして小さな自然の変化が見えない状態でした。

それが、ゴルフをするようになり、60歳を過ぎてからこんなにも毎日が楽しく、心浮き浮き過ごせるなんて想像もつきませんでした。まさに今が青春真只中だと思っています。

牛田さん(大阪IIゾンタ)とご一緒にゴルフが出来るようになったのはそんな時です。もう楽しくて楽しくて…。

朝から夕方まで、何も気を使う事なく、色々な話に花が咲き、一球・一球打つたびに、嬉しかったり・落ち込んだり・独り言をいったりと自由気ままな自分でいる事が出来ます。

上手になる事を諦めてはいませんが道程は遠く、目標は遥か彼方です。“ゴルフ場に寝泊りをして、毎日ゴルフをする事が出来たら上手になるかしら…”なんてバカな事を真剣に考えてしまいます。

しかし、今はこの楽しみを如何に長く続けられるかと言う事を最大の目標にしていきたいと思っています。



右端が笠置さん、中央が牛田さん

編集後記

秋という言葉は連想でいつも「人生の秋」を呼び起こしてしまいます。情熱の夏が去った後のわびしい秋ではなく、昔の歌にあったような、極上のワインを飲みほした後のように心地よい秋を迎えたいものです。それにはやはり、いっしょに道を歩いていける仲間が必要です。社会に開いた扉としてのゾンタの活動を、世界中の多くのメンバーとともに続けていきたいものです。

坂本 千代